
いつか紅葉の下で

不風

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

いつか紅葉の下で

【Zコード】

Z99870

【作者名】

不風

【あらすじ】

二人で公園で一服していた。そんな時、友人が一本の木を見つめていた。その木には、ひとつ思い出があつた。

綺麗な満月を薄い雲が覆い、月の光が反射して虹色に光つて見える。風は冷たくなり、友達が一斉にコートを羽織るようになった。そんな冬の初め。

「ふうー」

僕らは一人、帰り道の公園で一服をしていた。寒いこともあり、吐き出すタバコの煙がいつもより白く、長く続く。やつぱり外で友達と吸う煙草は格別だ。いつも部屋で吸うのとは一味も一味も違う。煙が肺の中を通り、口の端からゆっくりと吐き出す。そうするとだんだん頭がくらくらしてきて、そして疲れが取れていく感じがする。隣にいる友人が高2のとき親父のPIANISSIMOをぱくつてきて、それを一人で吸つたのが始める。世間への背徳感というか、まあそんなガキみたいな理由だった。そんな気持ちで始めた煙草も、今は「MILD SEVEN」「SEVEN STAR」と、少しニコチン、タールの量が増えた煙草を毎日のように吸つている。誰かに言つたら馬鹿にされそうだな。

それにして毎回迷うのは場所だ。二十歳になつてもいなし、学生服。見つかれば一発で補導される。というわけで堂々と吸うわけにはいかなかつた。

今回見つけたこの公園も、住宅街のど真ん中。周りは民家ばかりだつた。選んだ理由は公園おなかに明かりがなかつたのと、人通りが少なそうだつたつてだけ。

一人でたわいも無い話をしながら、一本吸い終わり、小便がしたくなつたので近くの茂みで立ちしょんをした。

戻ると、友人は一本の木を感慨深く眺めていた。

「なあ、こここの木なんか変じやないか？」

そこには、2m弱の木が5本並んでいた。

僕には何が変なのか分からなかつた。だが友達はどこか懐かしそ

うに見つめていた。

「何が変なんだ？」

「これだよ」

そういうて一番端の、その中で一番低い木を指差した。

「確かに、他の木に比べて少し小さいね。」

「そうじやないよ。ほら、この木だけ紅葉だ」

よく見ると、確かに他の4本とは違った形の葉っぱで、それは紅葉だった。

「へえ、それにしても、なんで一本だけ違うんだろうな。場所もコンクリートのすぐ横だし、明らかに場所が悪いだろ」「

「実はこれ、俺が昔植えたんだ」

「えつ、まじ？」

「へへつ、昔は20センチくらいの枝だつたんだぜ」

聞く話によると、小学1年生の頃、友人が友達と一緒にここに枝を植えたそうだ。別に自分たちで世話をしたわけでもなく、自然に育てられ、ここまで成長したそうだ。多分本人も当時ここまで成長するとは思つていなかつたんじゃないかな。

「やべえ、感動するわ。こいつ、俺の身長を超えやがつたよ」

「1年生つて事は…こいつは10歳か。まだまだ大きくなるぞ」

「きっと、俺のほうが先に死ぬんだろうな」

「親の気分？」

「そんな感じ」

「じゃあ将来さ、大人になって俺らが他の県に行つてもさ、またここにこいつの成長を見て一服しようぜ」

「お前はあんま関係ないけどね……まあそれもいいな」

僕も友人も、いつか大きくなり、幹はもっとたくましく、綺麗な葉っぱを咲かせた紅葉の下で、一緒に煙草の煙をふかしながら、思い出話に花でも咲かせる日が来ることを楽しみに待つていようと思つ。

(後書き)

呼んでいただきありがとうございます♪

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9987o/>

いつか紅葉の下で

2010年11月19日03時47分発行